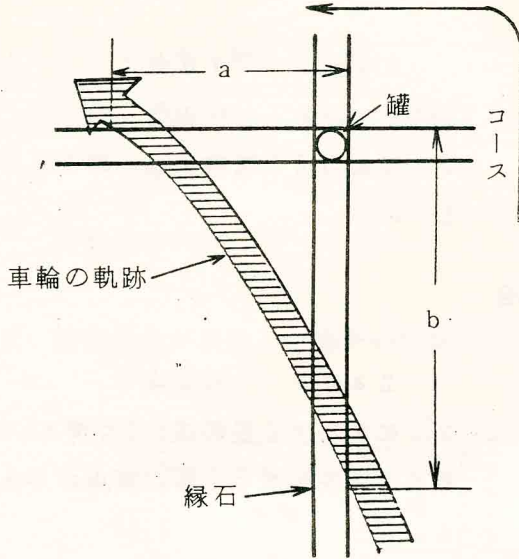


例4 車輪が罐に接触しないで第5図のように通過した場合の計測の仕方



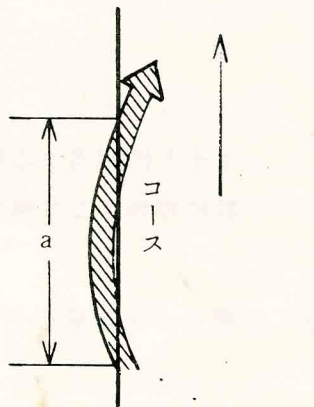
この場合は罐の減点と $a + b$ に相当する脱輪減点を与えられる。

第5図

VI 脱輪の計測の仕方

第5図のような状態の脱輪で、罐がない場合の計測の仕方は、例4において罐の減点がないだけである。

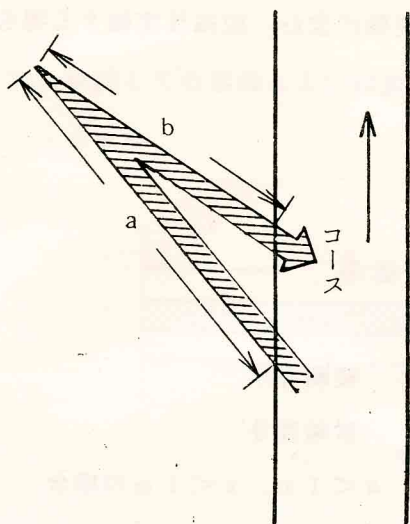
例1 車輪がコース面と並行して脱輪した場合の計測の仕方



a の距離に相当する脱輪減点
点を与えられる。

第6図

例2 車輪がコース面に並行しないで第7図のような状態で脱輪した場合
の計測の仕方

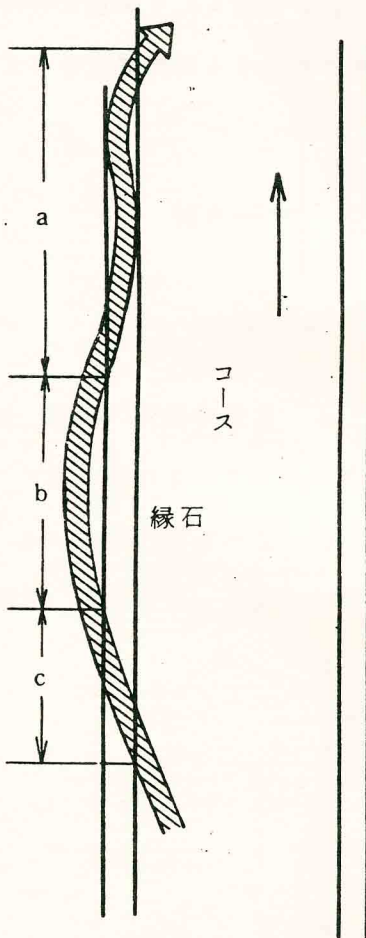


$a + b$ に相当する脱輪減点を与える。
第7図において a に b が重なった場合
は $2a$ に相当する脱輪減点を与える。

第7図

V 接輪して脱輪した場合

厳密に言えば脱輪の前には必ず接輪を伴うが、1メートル未満の接輪の後脱輪した場合にはこの接輪を脱輪に含む。脱輪後接輪する場合も同様である。



第8図

a, c 接輪部分

b 脱輪部分

例1 $a < 1\text{ m}$, $c < 1\text{ m}$ の場合

$a + b + c$ の距離に相当する脱輪減点
点を与えられる。

例2 $a < 1\text{ m}$, $n < c < n + 1$ の場合

$a + b + (c - n)$ の距離に相当する
脱輪減点と n の距離に相当する接
輪減点を与えられる。

例3 $n < a < n + 1$, $c < 1\text{ m}$ の場合

例2に準ずる。

例4 $n < a < n + 1$, $m < c < m + 1$

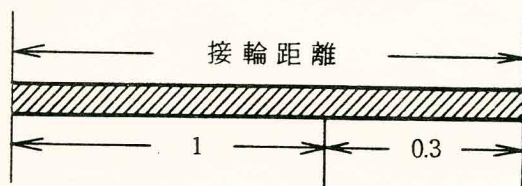
の場合

$(a - n) + b + (c - m)$ の距離
に相当する脱輪減点と n , m に相当
する接輪減点を与えられる。

vi 接輪の計測の仕方

第8図のa又はcのように計る。

vii 継続しての接輪あるいは脱輪は1メートルを越すたびに新たな接脱輪とみなす。



第9図

0.3メートルが新たな接輪とみなされ接輪数は合計2となる。脱輪の場合もこれに準ずる。

viii ダブルタイヤは1個の車輪とみなす。

昭和39年11月	制	定
昭和40年4月	改	訂
昭和41年4月	改	訂
昭和42年4月	改	訂
昭和43年4月	改	訂
昭和45年4月	改	訂
昭和49年4月	改	訂